



生活クラブ風車 夢風 News

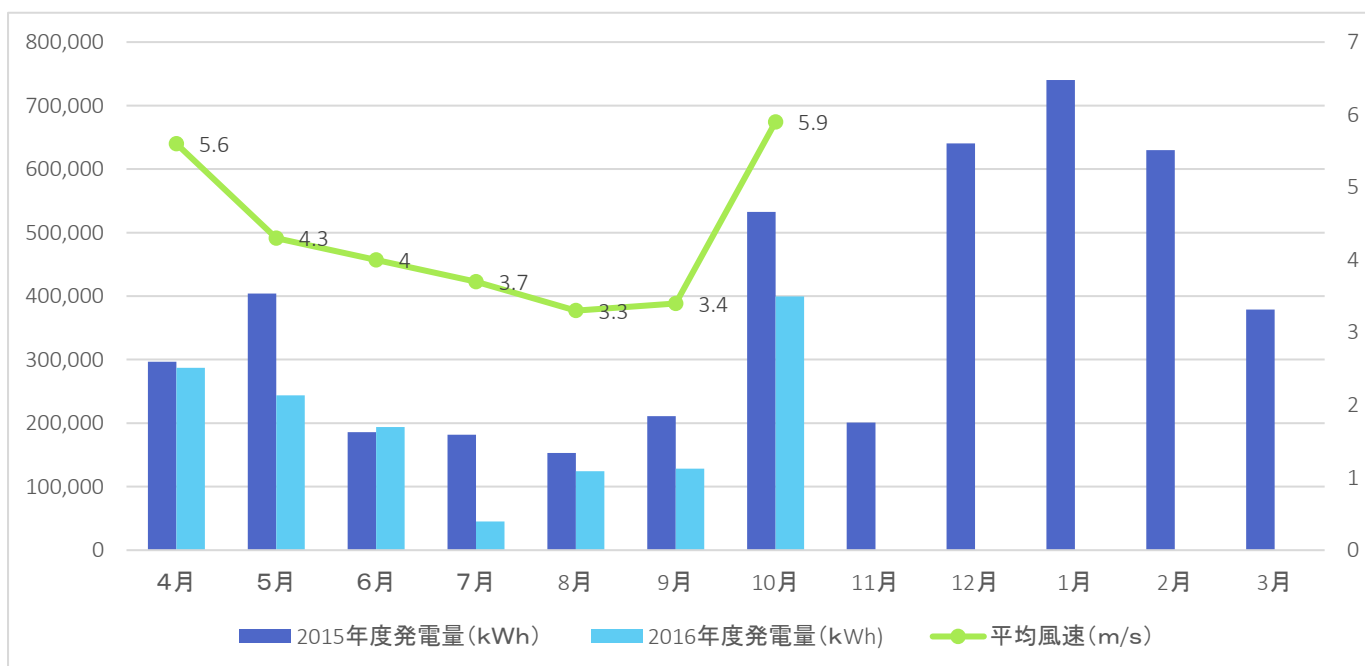


Vol.53

●発行 2016. 11. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田
●発行責任者 半澤彰浩(代表理事) ●編集責任者 西村明子

■2016 年度 発電実績

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	286,904 【96.7%】	5.6	20.0	10月	399,343 【75.0%】	5.9	27.0
5月	243,884 【60.3%】	4.3	16.5	11月			
6月	193,900 【104.3%】	4.0	13.5	12月			
7月	45,130 【24.8%】	3.7	3.1	1月			
8月	124,507 【81.3%】	3.3	8.4	2月			
9月	128,479 【60.9%】	3.4	9.0	3月			



○風況は過去4年の記録と同等でした。(過去4年平均値：6.03m/s)

○冬場に入り、にかほらしい風が吹き始めています。

10月31日(月)グリーンファンド秋田東京オフィスにて第2回グリーンファンド理事会が行われました。

- 2016年度の上半期の決算は、発電量 1,022,804kWh で前年比 71.4%、売電収入は前年比 77.1%、計画比 70.1%でした。風況が同時期の過去記録と比べて最も低い記録が続いたことと、6月後半から7月にかけてトラブルが続いたことが主な要因です。首都圏4単協への借入金の返済は滞りなく行われ、安定した事業経営となっています。
- 仮称)高森風車建設スキームとチャート案について討議しました。
- 生活クラブ風車建設5周年イベントについて討議しました。
- 「夢風」の文字とロゴの酒類全般の商標登録について承認しました。

■生活クラブ首都圏4単協・事務局リーダーツアーを行いました。

11月4日(金)5日(土)、首都圏4単協の事務局リーダー8人がにかほ市を訪れ、生活クラブ風車夢風の見学や、自然エネルギーの学習をしました。メンバーは全員にかほ市を訪れるのは初めてとのことで、秋田空港からにかほ市に近づくにつれて増えていく風車に驚いていました。



新谷さん 岩永さん 大橋さん 土山さん 坪郷先生 高橋さん 黒谷さん
 中村さん 長谷川さん 染谷さん
 松戸さん 正司さん 尾花さん

まず初めに風車サイトを見学しました。11月に入り、にかほ市には風力発電に向くよい風が吹いていました。風車にはよい風なのですが、気温11度くらいの中7~8m/sの風で人には本当に寒く感じられました。それでも夢風が元気に回っている様子を見られて、参加者たちはとても喜んでいました。参加者の中から埼玉単協狭山センターの中村泰介さんが代表してナセルに登る体験をしました。

その後生活クラブ風車の土地の地主である芹田地区の自治会館をお借りして、学習会を行いました。会館には荒川会長もお越しになり、ご挨拶もしていただきました。

学習会ではまず『未来を変える電気の共同購入～「夢風」から始まったエネルギーの産地提携』の映画上映を行いました。その後、早稲田大学大学院教授 坪郷實先生から「市民

自治による自然エネルギー社会づくり」というテーマでお話していただきました。日本とドイツの自然エネルギーの導入の仕方の違いや、東日本大震災を受けて脱原発を決めたドイツのエネルギー政策事情と、生活クラブがこれまで取り組んできた風車やエネルギーの共同購入の評価についてお話していただきました。夕方には宿に移動し、各単協の組織拡大活動の意見交換をしたのち、にかほ市役所の方々や生産者を交えて懇親会を行いました。



坪郷實教授

二日目には金浦公民館で、NPO 法人北海道グリーンファンドの鈴木亨理事長に市民風車の実践と地域に資するエネルギーをテーマにお話を頂きました。続いて、生活クラブ神奈川の半澤彰浩専務理事に生活クラブ風車夢風の建設とにかほ市との地域間連携の取組から生活クラブの電気の共同購入までについて学習をしました。



半澤さん 鈴木さん

ツアーのしめくりに元滝伏流水の見学をしました。前日に見た映画の中にも出てくる場所で、紅葉した木々と滝のすばらしい景色に参加者たちはとても嬉しそうでした。限られた時間の中でスケジュールいっぱいの日程でしたが、にかほ市と生活クラブとの地域間連携を実際に見て、風を肌で感じる二日間になったと思います。

■スコットランドから研究者の方がにかほを訪問しました

2016年11月6日(日)に、スコットランドの研究者の JELTE HARNMEIJER 氏(写真中央)が秋田県にかほ市の「生活クラブ風車・夢風」を訪問され、名古屋大学の丸山康司教授(写真左端)と法政大学の西城戸誠教授(写真右端)がご同行されました。GF 秋田より半澤代表が対応しました。



まず初めに道の駅ねむの丘で、風車の建設からにかほ市とのエネルギーを通じた取組、電気の共同購入など生活クラブの取組について意見交換

を行いました。その後、風車サイトで夢風の視察を行いました。風車のタワーに、風車建設の 캄パ に取り組んだ組織名称や、消費材が描かれている事に、とても感激していらっしゃいました。そして、芹田自治会の荒川会長に、自治会館でお話を伺いました。芹田自治会館では、生活クラブとの出会いの後に新築し、太陽光を設置し蓄熱暖房とするなど、いつでも暖かくさらにエネルギー収支ゼロの会館となっています。ちょうど会館建設1年で、エネルギー収支は売電収入が上回ったとの説明を頂きました。短い滞在時間でしたが、「生活クラブ風車の取組は世界的にも注目の実践の一つ」とのお言葉を頂き、これからますます様々な地域間の連携を広げていきたいと思ひます。

■にかほ市大豆乾燥調製施設の視察を行いました



佐々木さん 小林さん 荒川さん

今年度より、にかほ市で栽培・収穫された大豆が生活クラブの豆乳の原材料として組合員に供給されることとなります。2016年11月7日(月)に、大豆の乾燥調製を行っている JA 秋田しんせい西部地区カントリーエレベーターを、豆乳の生産者の共生食品(株)の小林利明営業部長と生活クラブ神奈川の半澤専務、芹田営農組合の遠藤組合長、芹田自治会の荒川会長で視察を行い、JA

秋田しんせいの佐々木鋼記センター長にご対応頂きました。にかほ市で栽培される大豆は「リュウホウ」という甘味がある品種で、西部カントリーでは、にかほ市の仁賀保、金浦、象潟の大豆を扱っており、由利本荘市の大豆とは区分されているとの事です。まず、カントリーでは、原材料を搬入し、荒選し、乾燥したのち、大粒・中粒・小粒に調整して、出荷します。今年の収量は、120 kg～130 kg/1反で、ほぼ平年並みとの事です。

カントリー視察のあと、芹田の圃場を見学しました。芹田では沿岸部は塩害もあり、来年度からは大豆の作付を内陸部のみにしていくとの事です。これから、にかほの大豆が豆乳になって生活クラブに供給されるが楽しみです。



大豆の圃場を見る荒川さん

■生活クラブ千葉 40 周年記念企画 虹いろフェスタに参加しました。

11 月 12 日、千葉県の幕張メッセイベントホールで行われた虹いろフェスタに参加しました。

にかほ市から須田正彦副市長をはじめ、総務部企画課佐々木俊哉課長、(有)三浦米太郎商店の三浦悦朗さん、日南工業(株)の服部進一さんにも来ていただき、鱈しょつつるやはたはたの加工品、にかほ市のアピールをしました。当日は 4000 人以上の来場者があり、グリーンファンド秋田ブースでは鱈しょつつるやはたはた加工品の試食や、販売をしたり夢風酒の試飲をおすすめしたりしました。



鈴木事務局長 服部さん 須田副市長 山本常務 (千葉)

鱈しょつつるは、生活クラブ千葉の組合員が開発

に参加したこともあり、ブースを訪れた組合員の中からは「これがないと困るくらい大好きになりました！」「本当においしいですね」という声がきかれました。また、試食でハタハタや鱈しょつつるを初めて食べた人も「おいしい」「食べやすい」と好評でした。

■ぶらり人形町



11 月に入り、夢風にとっていい風が吹いてきました。しかし、ここ関東は空気がとても乾燥する季節です。いま人形町の通りには火の用心の旗がはためいています。この写真の時計台の中にはからくり人形があり、中では火消し姿のお人形たちがいて午前 11 から午後 7 時までの正時に動き出します。江戸時代、人形町の町火消は「は組」が担当したそうです。いろは 47 組の 3 番目ですから、昔から華やかな町だったのでしょね。火消しといえば、火事と喧嘩は江戸の華とはいいますが、どちらにも遭遇したくはないものです。

寒い毎が続きますが、皆さん、どうぞご自愛ください。